

## 第2回田川市都市計画マスタープラン策定委員会

### — 議 事 要 旨 —

■日時：平成22年1月25日（月）  
13：30～16：00

■場所：田川市役所大会議室

#### 【会議次第】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 都市の現状と課題について
  - (2) 都市づくりの目標について
  - (3) その他
- 4 閉会

#### 【委員出席者】

- ・依田浩敏（近畿大学産業理工学部教授）
- ・文屋俊子（公立大学法人福岡県立大学人間社会学部教授）
- ・小川博之（福岡県建築都市部都市計画課長）代理：森田委員
- ・宮崎良哉（福岡県田川県土整備事務所長）代理：平川委員
- ・堀江昭美（たがわ21女性会議代表）
- ・伊藤龍文（田川市農業委員会会長）
- ・嶋津亮彦（田川青年会議所直前理事長）
- ・吉武精稔（田川市区長会常務理事）
- ・國松茂雄（田川市社会福祉協議会副会長）
- ・竹野九州男（田川市議会議員）
- ・佐藤俊一（田川市議会議員）
- ・二場公人（田川市議会議員）
- ・尾崎行人（公募市民）
- ・池田智子（F I T）
- ・野村万紀（田川市環境審議会委員）

#### 【委員欠席者】

- ・佐渡文夫（田川商工会議所会頭）
- ・今村秀治（公募市民）

## 【議事概要】

### 3 協議事項

#### (1) 都市の現状と課題について

#### (2) 都市づくりの目標について

##### ■委員長

(1)、(2)は、協議の関連性が高いことから、事務局より一連を通して説明を行ってもらい、その後に質疑応答を行うこととする。

(資料内容説明：事務局)

##### ■委員長

ただいま事務局から説明があった内容について審議いただく。まずは、田川市が抱える都市づくりにおける課題についてご意見を伺いたい。

##### ■委員

感想を含めてだが、環境への取組みは非常に重要であると考えているが、CO<sub>2</sub>の削減を具体的にどのように実行するのか、都市であれば路面電車の復活であったりするのだが、自分自身もどのようにすべきか考えてはいるがなかなか難しいので、そのあたりの考え方を聞かせていただきたい。

もう一つは、高齢化社会が進んで財政状況が悪化していく中で、今後どのようなまちづくりを進めていくのかについて、イメージが湧かないのでご説明を願いたい。

また、今後の検討になると思うが、福岡市ではユニバーサルデザインなどの都市のまちづくりデザインを進めているが、田川市では福祉のまちづくりとしてどのような整備を行っていくのか伺いたい。

##### ■委員長

今の質問は、大きく分けて3つあった。一つは環境問題に関する交通の考え方、二つ目は高齢化に向けた財政問題、三つ目はユニバーサルデザインに関する内容であったが、事務局の考えを説明願いたい。

##### ■事務局

環境負荷の軽減に関する内容は、アンケート結果にもあったが、田川市では何をするにしても車を使用しているような現状にあり、今後改善を図っていく必要があるが、まちづくりでの対応としては、市街地の拡散を防ぐとか、街なか居住を増やしたりして、公共投資の効率化を図ることが必要であり、徒歩圏で生活できるまちづくりを進めていく必要がある。

また、地方分権社会に対応できる魅力あるまちづくりを進めていかなければ地域間競争に勝てないと考えている。そういった意味も含めてまちづくりについては、総合計画に沿った形で進めていくことになる。

##### ■委員

環境負荷に関する内容について、考えられる施策を伺いたい。

##### ■事務局

環境負荷の軽減に関する交通の対応としては、福祉バスでの即応的な対応が最も好ましいと考える。公共交通の利用促進を図るために、路線バスの充実等を行うことも考えられるが、民間交通会社に負担を強いることになり、赤字路線の税金による穴埋め等を行っていく必要があるため、福祉バス等における細かな対応を行っていくことが重要である。

路面電車などの新たな公共交通の導入は、他の市町村でも手がけられる自治体はほとんどなく、ソフト的な対応で実施せざるを得ない状況にある。

このため、交通施策だけで環境負荷のまちづくりを進めていくのではなく、駅周辺に人を多く住ませるなど、まちづくり全体で考えていく必要が高まっている状況にある。これから長いスパンを想定して、現在郊外に居住されている方を街なかに移住させることはできなくとも、新たに居住される方は駅周辺に住んでいただくようなまちづくりを展開していく必要があるということである。

今回提案させて頂いた都市構造は、田川市の地域性や魅力を最大限発揮して、過疎化の進行や高齢化社会の進展に対応でき、地域間競争に勝てるような将来の都市の姿を提案さ

せて頂いているので、この都市構造に足りない点や追加すべき内容等に関してご指摘願いたいと考える。それと、ユニバーサルデザインの話があったが、都市計画マスタープランでは、そういった面での記述はするが、あくまで都市づくりの範囲とは少し異なるものと考えており、とりわけ項目として挙げるものではないと考えている。

#### ■副委員長

福祉バスの話が出たが、田川市の市民は交通に関しては非常に自立性が高く、このアンケートでも84%の方が自家用車の利用となっており、公共交通を利用される方は5%である。田川市の場合、この自動車依存の状況から脱却していくことが重要となる。

これから拠点性を高めるようなまちづくりの展開を図っていくことが考えられているが、市街地内の拠点間を連携させることが大事であり、それが公共交通の利用促進に繋がる。ここに居られる方々がみんな安心して車から手を離せるような、総合的な交通体系というものを構築していく必要があり、単に福祉バスの運行といった対応だけでは今後の高齢化社会に対応できる交通環境は確立できない。田川市は、真剣にこの交通問題を考えていくべき時期にきていると考える。

#### ■事務局

交通体系に関しては、具体的な方針は次回の全体構想の中で示したいと考えているが、今回は拠点と軸といった都市の骨格構造までを提示させて頂いている。次回の委員会でもう少し踏み込んだ交通施策の方針が検討できると考える。できるだけ公共交通を使えるような提案もこの都市構造の中に含んでいるということでお考えいただければと思っている。

#### ■委員

地域住民のまちづくり参加という意味では、市民とビジョンを共有することが大事であると説明があったが、田川市のやり方は、私が以前視察に行った留萌市のやり方とぜんぜん違う。留萌市は、48人の一般公募からなるワークショップ、そして市民会議など、相当数の会議を実施して市民の意見を吸い上げていた。スケジュールを見る限り、市民の意向を聞くのは、この市民アンケート、住民説明会、パブリックコメントの3つくらいしかない。本当にこれで、意見は反映されるのか疑問である。これについての田川市の考え方があれば教えてほしい。

#### ■事務局

留萌市の進め方については目を通したことはあるが、田川市との違いはワークショップを開催しているという点である。当初は、ワークショップの開催も考えていたが、第5次総合計画の中で、都市づくり部会のワークショップが開催されたこともあり、都市計画マスタープランの担当課としては、都市づくり部会のワークショップで得られた市民意向を都市計画マスタープランに反映することで対応したいと考えている。

#### ■委員

都市計画マスタープランと総合計画では少し意味合いが異なるので、その内容を反映するのであれば、この策定委員会の中で都市づくり部会の内容を説明していただきたいと思う。それと、このマスタープランは策定期間が3年間ということになっていたが、留萌市も3年半位かけていた。時間的なものは変わらないのでやろうと思えばやれるのではないか。田川市の場合、実質の審議機関として、庁内の検討部会とこの策定委員会しかない。市民の意見をどんどん入れて、内容を充実させてほしい。

#### ■事務局

田川市の都市計画マスタープランの策定は、3年間にわたるが実質は2年間の策定期間となる。市民意向の反映としては、アンケートの実施やこの策定委員会資料の開示などによって寄せられた意見等も反映できればといった姿勢で臨んでいる。

#### ■委員

せっかく創るマスタープランなので、最終的な結論だけを市民に説明するような内容にして欲しくないと思っている。市民意向に基づいた都市づくりの方向性を示して頂きたいと考える。

#### ■委員

今日は全体像が示されて現況と課題を把握するということだと思うが、気になったのは、テーマの表現で、にぎわいもいろいろあるが、どういうにぎわいなのか。今後議論していくものであれば、それでもいい。人が集まるとか、建物がにぎわうとか、テーマのゴロは

いいが、何かイメージがわからない。それともう一つ、両商店街の方々が必至に努力を続けているが、なかなか市民生活と一体的なものになっていないところに大きな問題がある。いくらこうやってうたっても、中身が具体的になっていない。そういう意味で商店街の方々の苦労を私たちも把握し、それに対して見通しをたてて、拠点機能の強化をしようということが出てくるのかなと思う。そのあたりが深められる情報提供をお願いしたいということだけ意見として加えさせていただく。

#### ■委員

私もワークショップに参加している。総合計画のワークショップもあれだけで、市民の意向を反映したとは言えず、様々なアイデアが不完全な状態であった。やはり具体的な政策をつくるなかで、例えば交通機関で電車や路線バス、ふれあいバスなどを使うにあたって、民間からの広告を利用しながら、そうした民間のアイデアを利用すればうまく回ると思う。ワークショップもされてはと思う。

それと市民意向の把握であるが、アンケートの50%以上が60歳以上の方からの回答であり、若干偏りがあると思う。保健、医療、福祉の充実が最重要課題となっているが、はっきり言って、お金がないとできないと思う。産業とかも重点課題として考えていく中で、私たち若者の働く場所の問題などもしっかり少数意見ではあるが、入れていただきたい。

それと若者の関心がなさすぎると思う。関心さがまちづくりの中に足りない。失礼ながら、高齢者中心のまちづくりになっていくのは否めない。

#### ■副委員長

田川市では、公共交通会議が同時並行で進んでいる。そちらの方で地域の方々の意見は聞いているところである。ここは都市基盤をつくるという委員会であるので、どのように情報のやりとりが行われるのかわからないが、情報提供ということで意見を聞いていただければと思う。

#### ■事務局

公共交通会議の中身と合致する内容があるため、双方の検討内容が整合するように進めていきたいと考えている。

#### ■委員長

田川市の現況と課題に関する質問は、他にないようなので終了する。

続いて、都市づくりの目標に移るが、先ほどにぎわいのイメージに関する質問があったので、まずそれについて事務局の考えをお答え頂きたい。

#### ■事務局

田川市の商店街の現状を見ると、伊田も後藤寺も商店街が衰退し、利用者も少なくなってきたという状況にある。そういう状況の中で、人の流れがない限りは、そこににぎわいは生まれないと考えている。そのような観点から、都市機能の集積やイベントの開催によって人々が交流する場所を形成し、人が交わることで生まれるにぎわいを創出したいという考え方である。

#### ■委員長

将来像では一言で表現されているが、その具体的な内容が基本理念として表現されているという認識でよいか。

#### ■事務局

その通りである。

#### ■委員長

基本理念や基本方針の内容に関する意見はないか。

#### ■委員

人が集まるということについて、伺いたい。田川市外、県外の方が観光に来るとか、宿泊を含めて来るとか、ここに移住して来るといったことなのか。また、将来人口として46,000人を目指しているが、これは高校を卒業して、進学してよそに行かれた方がUターンして戻ってくることを想定しているのか。さらには、もっと大学自体を増やして進学も就職も田川というように考えているのか、どこからの人を望んでいるのか。目指す状況によって計画も変わってくると思うので、目指す状況を教えてほしい。

## ■事務局

教育などソフト的な施策については、現在同時並行で策定を進めている総合計画が担う分野となる。都市計画マスタープランは、総合計画の考え方に沿って都市計画の方針づくりを行うこととなる。都市計画マスタープランにおいては、将来像として掲げる“ゆとりと潤いのある にぎわい都市”が実現できるような都市を創るということで、46,000人という人口を確保したいというイメージで考えている。つまり、これに合わせて、教育分野やそういうソフト的な施策は総合計画の中で一緒に進められていくことになる。都市計画マスタープランは基本的にハード的な分野がメインになる。当然総合計画とのリンクは図っているという考え方で出させていたideている。

## ■委員

都市計画マスタープランより総合計画の方が優先されるのであれば、総合計画の考え方をこの委員会の中で提示してほしい。

## ■事務局

総合計画は、基本構想の骨子案が検討されている状況にあるが、総合計画は10年後を目標とし、都市計画マスタープランは20年後を見据えているといった違いはある。しかし、それぞれの計画がリンクしていなければならないので、それは調整させていただく。

また、どこから人を呼び込むのかといった質問だが、それは市内に限らず、外からも呼び込むようなイメージで考えている。

## ■委員

都市マスの将来像と第5次総合計画の将来像は一致しなくていいのか。せっかくみんなで考えて一つの案を出したにもかかわらず、最終的に総合計画の将来像を載せることになったということでは、無駄になるので、そこを確認したい。

## ■事務局

総合計画と都市計画マスタープランが同じ将来像でなければならないということはない。他市の事例においても、それぞれが独自の将来像を掲げている自治体は多い。ただし、今回の将来像については、総合計画の考え方を十分に反映させた将来像として設定している。

## ■委員長

そういった中で、“ゆとりと潤いのある にぎわい都市田川”という将来像が出てきたということだと思う。

## ■事務局

はい。

## ■委員

将来人口の設定についての考え方を再度伺いたい。

それと、市街地の再生について考えられていることがあれば教えてほしい。駅前の再生、商店街の再生など、にぎわいづくりについて、どう考えているのか。

## ■事務局

人口については、先ほども説明したが、国立社会保障・人口問題研究所が算定した将来人口の推計値をもとに設定しているが、この設定数値について、皆さんのご意見を伺いたいと考えている。

伊田駅周辺と後藤寺駅周辺に関しては、いずれも本市にとって重要な拠点であるため、両地区における活性化に取り組んでいく必要があるが、まずは役割分担を行うことで、それぞれの地区の魅力の方向性を示している。伊田駅周辺については、少し役割を広い範囲で設定して田川都市圏における中心地に位置づけようと考えており、後藤寺駅周辺については田川市民の身近な買物場所として商店街の賑わいづくりを重点的に行っていくという考え方を示している。

## ■委員

駅前地区の改善に関しては、大きく事業展開していくような考えはないのか。

## ■事務局

駅前商店街等に関しては、商業者の自助努力も必要となるので、商業者との連携を図りながら活性化を進めていく必要があると考えている。伊田駅周辺においては、旧東高校跡地の活用が市の重要課題となっているため、この土地に必要な都市機能を導入して、子どもから大人までが集まれる場所にしていきたいという考え方は持っている。

## ■委員長

そのような具体的な内容については、全体構想でも記載いただけるものとする。また、本日田川市の両駅に関する、市民意向や現状分析を踏まえて、それぞれの役割分担が事務局より示されているが、それについてのご意見を伺いたい。

## ■委員

伊田と後藤寺に関して、5ページに両拠点の役割分担がまとめられているが、資料2の13ページ目の伊田と後藤寺のデータがわかりづらい。それと35ページの後藤寺の通行量が急激に増えているところがあったりと、数値分析が確かなものなのかと少し感じたところである。もう少し整理されると、伊田と後藤寺の特色がわかりやすくなると思う。もう一つは、公共交通機関に関する内容である。6～7ページを見て私も率直に思ったところであり、今後の高齢化社会を見据えた公共交通のあり方を考えると、公共交通機関の活用を念頭に置いておくべきと思っている。これについては、感想として述べさせていただいた。

## ■事務局

乗降客数の変化の要因は、JRに訪ねていたが本日まで回答を得ることができなかった。現在、最新の乗降客の問合せを行っているので、その数値で判断して頂きたいと考えている。

商店街の歩行者交通量は、商工会議所による調査結果を採用しているが、それぞれの駅前でも歩行者交通量の多かったポイントを採用して提示させていただいたところである。

## ■委員

後藤寺と伊田の経営者の年齢構成と後継者の問題がどのようになっているのか教えてほしい。

実は文章の中に教育と子どもという言葉が一切出てこない。なぜかと疑問を持ってここに来たが、話を聞いていく中である程度わかった。しかし、都市づくりの中で、子どものにぎわいがないというのはどうなのか。そのあたりの関連は触れなくていいのか。あるいは、通行量についても、高校生が多いはずである。そのあたりとの関連というか、教育環境づくりについては、全く触れなくてもいいのかという疑問が消えない。

## ■委員

今の意見と関連するが、ゆとりと潤いというのは、どういうことをすればできるのか。精神的なものや経済的なものもあると思う。そういうものがないとそんな街にはならない。今の総合計画が10年計画で行われていると聞いた。平成42年の人口目標が46,000人と推計されているが、人口が少なくなるのに、ゆとりと潤いというにぎやかな街に果たしてどうしてしていくのか。

教育の面もあるが、将来の子供たちにこの都市計画を渡していかなくてはならない。現在、どういう方向で総合計画が進んでいるのかなど、都市計画との整合性があるこそ議論は前に進むと思っている。今の総合計画の状況についてだけでも知らせてほしい。

## ■事務局

12月に総合計画の骨子案が検討されている。提出できる範囲内で資料提供したい。

## ■委員

伊田と後藤寺の方向性(拠点の役割分担)については、両商店街振興組合とコンセンサスを得ているのか。

## ■事務局

地元商店街とは、説明会や意見収集等のコンセンサスは図っていない。

## ■委員

商店街に関しては、この委員会で勝手に決めて後は、商店街の自助努力で勝手にやっってください、ということであれば、話はこじれて都市開発どころではなくなると思う。土地の権利関係とか、公的資金を投入してどうこうという話にもならない。

商店街の自助努力ですよと言いながら、コンセンサスを取らずに伊田は田川市の中心都市でやっってください、後藤寺は地元の日常の生活都市としてやっってください、と勝手に進めていくのでは、絶対のコンセンサスは取れないと思う。

## ■委員

後継者がどうなのかというのが大きな問題で、そのあたりの情報提供があった中で確定

というか、商店街の方々の意見が反映されていく中で、作っていくべきだと私は思っている。そういった一定の指針が示され、判断できれば住み分けをしようということになる。そこらあたりがポイントになる。

#### ■事務局

この委員会には、それぞれの商店街の代表が出席されている。事前に資料を配布した中で、それぞれの意見を伺って判断していきたいと考えている。

#### ■委員

商店街に関しては、商業者の方々が納得した上で決めるべきだと判断する。

#### ■事務局

ここに出席されている委員の方々は、市長の諮問によって構成された第三者委員会のメンバーとなるため、当都市計画マスタープランを策定する責務を要し、策定に至るまでの守秘義務も必要となる。

この策定委員会によって、市民の意見を踏まえた都市計画マスタープランの案を作成し、一貫した考え方に基づくプランを市民の方々に説明させていただくつもりである。ただ、これについては、商業者とか団体とか関係なく、一律に市民への情報開示としての形で示させていただくことになる。当然、公共交通機関などの公共性の高い機関とのコンセンサスは必要となるが、商業者とか権利者とかの個人とのコンセンサスを取ることは要しないものと考えている。

#### ■副委員長

にぎわいと関係するが、都市計画を進めないで、そのまま放置しておく、伊田も後藤寺もますます低迷してしまうことになる。また、崩壊してしまうこともありうる。この都市計画マスタープランで提案されているのは、もう一度中心商業地ににぎわいを取り戻そうという話であり、人口は減るかもしれないが、最寄り品も買回り品も分散している買い物行動を中心商業地に呼び戻そうということである。どちらかという、田川市全体というより、中心商業地のにぎわいを取り戻そうとする考え方である。そういう意味で、人口は減るが、にぎわいということでは理解できる。

また、人口が減少するときには、減少の仕方がある。市全体として、一律に減少するという傾向にはない。一旦中心商業地に集まって、そこからまた減っていくという形で減少する。中心商業地は、人口は増加しないにしても減り方が少ないという傾向にある。

計画人口は、ありうる数値を出しているのではないかと思う。この場合、気をつけておかなければならないことは、田川市郡の中心都市ということで、田川市を考えているが、田川市郡の人口自体も今後、減少していくという形になるので、それが田川市にとって良かったというふうには、たぶん言えないと思う。しかし、そんな中で、やはり田川市に何らかの中心性がある、ある程度のにぎわいの場所があるということがないと、田川市もろとも田川郡もさらにひどい状況になることは、確かであると思う。ここで言われている、人口は減少する、けれど、にぎわいと交流をとすることは、非常によくわかる。田川市民が、あちこち自分の好きなどところに現在住んでいるが、それを呼び戻すということは、私は何ら不思議なことではないと思う。

#### ■委員

都市計画マスタープランは、ハード面ということであるが、やはり住む人のための施策であると思う。これは、そこで、それは、ここでやっているとかで、すべて計画がリンクしていない。私は、すべての会議に出ているが、それぞれが同じことを言っている。議事進行においては、もう少しテーマを絞った話ができるようにしてほしい。

#### ■委員

久留米の商店街は、すぐ近くにイオンができたため、ガラガラになって、シャッターがどんどん閉まっており、その一方で、イオンの近くは大渋滞を引き起こしている。また、近年イオンが売上不振のため、年間何十店舗も閉鎖している中で、ゴーストタウンのようになっている街も多々ある。

伊田も寿屋ができて、201号沿いにサンリブができ、その度に商店街のシャッターが閉まっていった。後継ぎがないから潰れていくのではなく、商売ができないから、潰れるのであって、商売が成り立っているところは、自ずと後継ぎもできるという状況であり、新しい担い手が新しいシャッターを開けている。商売が成り立つか成り立たないか、それ

は自分たちで努力してくださいということであれば納得は得られないと思う。

今度のマスタープランでは、方向性をしっかりつくるということであれば、もう少し方向性にめりはりをつけてやらないと、私が持ち帰って説明するときに最終的に伊田と後藤寺の違いは何なんだということになる。後藤寺とか伊田の決断ができなければ、せめてこの部分の方向性をもっとはっきりさせるべきである。例えば、お年寄りが買い物しやすいようにバリアフリーにするなど、商業者のアイデアになるようなことをここではっきりとやってあげないと、何の意味もないことになる。伊田はこう、後藤寺はこうという将来図が見えにくい。

私は、マスタープランは夢がなければいけないと思う。先ほどから人口は減少していくという内容を聞いていると、寂しくなる。私には、子どもがおり、夢を子どもに語っていきたいと思っている。ここにいる私たちが、田川はよくなるんだということを自信を持って創造していかなくてはならないと思っている。

2つの河川のことについては、九州で一、二位を争うほど汚い遠賀川水系の上流を預かる田川市としての姿勢が全く見えない。川は汚く、川になじめと言われても、なじめない。それならば、将来図として、川をきれいにする施策とか方向性を明記しておくべきではないかと思う。

#### ■委員長

色々な意見が出されたが、具体的な内容については今後少しずつ進めたいと考える。

#### ■委員

市民アンケートの集計が行われているが、この集計結果を市民に公開するのか。また、その公開を踏まえて意見を伺うことなどの考えはあるのか。

#### ■事務局

アンケート自体については公表したいと考えているが、アンケート内容を追加しようとは考えていない。

ただし、このアンケート結果を踏まえた都市計画マスタープラン案に関する意見は、市民から徴収したいと考えている。

#### ■委員

子どもに夢のある田川市ということの関連であるが、私も40歳を過ぎて20年先のことを考えると、自分が年をとっても、歩いて、せめて自転車を使って買い物ができる住みやすい伊田商店街や後藤寺商店街になるというようなビジョンを作ればいいのかなど思っている。また、福岡とかで働いている人が、Uターンして老後は田川に戻って来るというまちづくりをするのが、この委員会の目的であると思っている。そのあたり確認したい。

#### ■事務局

その通りである。

#### ■委員長

色々のご意見が出されたが、意見に対する回答は次回行いたいと考える。

### (3) その他

#### ■事務局

次回の策定委員会の日程は、3月26日、30日あたりで設定したいと考えているが、日程については後日書面で案内させていただく。

## 4 閉会

#### ■事務局

(閉会あいさつ)